

執筆者紹介（掲載順）

平澤 歩（東京大学）
吉田 拓矢（北海道大学）
下村 育世（国立歴史民俗博物館）
志村 敦弘（東洋大学東洋学研究所）
顧 嘉晨（東京大学大学院）
青木 洋司（國學院大学）
劉 書鈺（関西大学大学院）
徐 燕斌（東京大学大学院）

彙報

日本儒教学会 二〇二三年度大会（第八回大会）
開催日 二〇二三年五月二十八日（日）
会場 早稲田大学小野記念講堂
研究発表

劉 書鈺（関西大学大学院）「近世久米村士族の喪葬礼に見える『家礼』の変容―誌石・『祭文』を中心に―」
司会 清水 則夫（明治大学）
杜 絡嘉（関西大学大学院）「伊藤仁斎と朱舜水・安東省菴一門との交流―礼及び文章の作成をめぐる―」
司会 阿部 光麿（私立武蔵高校）
徐 燕斌（東京大学大学院）「革命と志士―朱舜水の受容から見る清末民初の政治的闘争―」
司会 小野 泰教（学習院大学）

評議員会

総会

シンポジウム

「暦と王権」

司会 山本 正身（慶應義塾大学名誉教授）
報告

平澤 歩（東京大学）「暦の「正しさ」は何故必要なのか？」

―劉歆の三統暦と日食説―

吉田 拓矢（北海道大学）「日本古代における中国暦法の継受」

下村 育世（国立歴史民俗博物館）「明治改暦の背景と影響」

―日本らしい暦の模索―

コメント 田中有紀（東京大学）

討論

編集後記

本号は昨年の大会シンポジウム「暦と王権」での報告者三名の論文と投稿論文五本を掲載しました。暦の問題についてはコメント担当の田中有紀先生を含めて若手研究者のみなさんから新鮮な話が聞けて、個人的にも得るところ大でした。なお今年の大会は五月二十五日に初めて二松学舎大学九段キャンパスで開催します。土曜日であることと併せてご注意ください。シンポジウムでは生誕三百周年の戴震を中心に議論します。

（小島 記）